

結成20周年  
新たな大躍進  
に向け出発!

# 月刊 動労千葉

「組織破壊者」 「組織内からウミ」  
を一滴残らず絞りだす……

## ももの言えぬ東労組の現実

この間、JR東労組の内部で、息のつまるような「肅正」の論理が横行している。JR東労組や各分会などが出している情報を見ても、あまりにも常軌を逸した事態だ。酒の席でのたわいな発言であろうが何であろうが、JR東労組に批判的なことを言つた者は全てやり玉にあげられ、「組織破壊者」のレッテルがはられて、「組織内部からの組織破壊攻撃」「組織内からウミを一滴残らず絞り出す」などと称して、謝つても許さず徹底した個人攻撃を加えるという事態がエスカレートしているのだ。

動が始まり、本人は「いままで言い逃れようとしていたのは自分自身の自己保身だった」「組合への謝罪もしていないことは組合意識が希薄だった」と謝つたが、何と「その後6回の事情聴取を行った」というのだ。しかもこの事件は、上野車掌区分会だけでなく、東労組本部の機関紙、東京地本の機関紙や他の分会の機関紙にまで「組織破壊」に加担した者は誰であろうと許さない」と称して、繰り返し書き立てられている。

仲間や同調者のあぶりだしのために署名が集められ、四日間にわたって組織破壊弾劾の職場集會がもたれるという追及行動が展開されているのだ。脱退の意志を撤回しているにも係わらず、「彼は常に批判的であり、今回の事態は組織破壊の尖兵になった事を自己暴露したのだ。我々は絶対に許さない」(水戸地本情報)というのである。

標的は全組合員  
こうしたことはあげたら枚挙にいとまがない。新潟運輸区で脱退した組合員は、「自由にモノが言えない体質」「分会事務所での追及・おどし」「友人関係にまで干渉されるのは我慢できない」などを理由にあげているが、東労組新潟地本の機関紙では、「通勤会などでブラブラ連合の連中と一緒に飲み会やレクをやるのは、その犯罪性において同一だ」と、国労や鉄産労と付き合ひのある組合員全体にその追及の刃が向けられている。

なぜこんな事が  
東労組の組織運営は、まさに憎悪と恐怖、猜疑心にとりつかれた状態だ。しかし一体なぜこんなことが起きているのか。それは第一に、労使一体で労働者を支配してきたことの必然的な結果に他ならない。東労組は信頼関係と団結で組織がなりたっているのではない。バックに会社があることを誰もが知っていて、その力で組織が成立してきただけのことだ。だから、会社に使い捨てられたときには一夜にして組織は崩壊する。その恐怖感が前述のような行為に駆り立てている。

以下は、すべてJR東労組自身が機関紙などで、見せしめのように書き列ねていることだ。

これは、土浦運輸区の組合員が、東労組脱退の意志を明らかにしたところ、水戸地本委員長竹内、副委員長村上(いずれも千葉と同様に東京から送り込まれた革マル分子)らが分会に乗りに込んで組合事務所カンツメにして「オルグ」し、本人も脱退の意志を撤回した事例だが、それからがまさに異常としか言いようのない対応が行われた。地本の機関紙、分会機関紙、掲示などで、「組織破壊者を許すな」「〇〇による組織破壊攻撃粉砕」と実名で書き立て、職場では、

これは、8月29日〜30日に開かれた東労組青年部定期委員会のことだ。委員会の一日目、資料の裏に「東労組にもものもす! JR連合と飲みにいってもEじゃん、どんどん行ってやんよ!」だつて東労組の上の者は自分がかわEくらしく、下の者をなめすぎじゃ〜」等のたわいな落書きがしてあったというだけのことだが、東労組青年部は翌日、緊急に「特別決議」まであげてこれを弾劾した。その決議の内容が尋常ではない。「(落書きは)JR東労組破壊を目論む輩の意志を受けたものであり、……明らかに定期委員会の混乱、組織破壊を意図したものであり、……東労組青年部に対する宣戦布告である」「その裏にあるのは、労働組合の存在すら許さないと意図するものである」「表にあらわれた組織破壊者は氷山の一角であり青年部のウミとしていまだに組織内に残されたままである。……組織内からウミを一滴残らず絞り出し、……」

こうして一枚の落書きが「国家権力の意志を受けた攻撃」かのようにデッチ上げられていくのである。「非国民」を次々とデッチあげたかつての天皇制日本やナチスドイツの論理を見るかのような。あるいは、同志を次々と肅正したスターリンそっくりのやり方だ。

廃棄」などが発端だが、「地本・支部幹部は、……己が犯した非を認める事もせず、開き直つてエゴのゴリ押しで乗切を図つてきました。真実を押し隠して自己の保身に血道をあげ、我が分会に対する指示指令・情報の遮断や恫喝・発言の圧殺を行つてきました。……彼らは『議論の必要なし』という独善的判断を下し、……真実を消し去ろうとしていきます」など、東労組千葉地本や成田支部の組織指導が激しく非難されている。

事例1  
上野車掌区問題

事例2  
土浦運輸区問題

事例3  
青年部落書問題

第二には、東労組を牛耳っているのが革マルだからだ。革マル特有の、人間を力で支配できると考えるファシズム的発想が根幹にある。

こんなことをいつまでも許してはいけない。いまこそ東労組と決別し、労働者のための労働組合を創り直そう。

事例1  
上野車掌区問題

事例2  
土浦運輸区問題

事例3  
青年部落書問題

第二には、東労組を牛耳っているのが革マルだからだ。革マル特有の、人間を力で支配できると考えるファシズム的発想が根幹にある。

こんなことをいつまでも許してはいけない。いまこそ東労組と決別し、労働者のための労働組合を創り直そう。

事例1  
上野車掌区問題

事例2  
土浦運輸区問題

事例3  
青年部落書問題

第二には、東労組を牛耳っているのが革マルだからだ。革マル特有の、人間を力で支配できると考えるファシズム的発想が根幹にある。

こんなことをいつまでも許してはいけない。いまこそ東労組と決別し、労働者のための労働組合を創り直そう。

事例1  
上野車掌区問題

事例2  
土浦運輸区問題

事例3  
青年部落書問題

第二には、東労組を牛耳っているのが革マルだからだ。革マル特有の、人間を力で支配できると考えるファシズム的発想が根幹にある。

こんなことをいつまでも許してはいけない。いまこそ東労組と決別し、労働者のための労働組合を創り直そう。

事例1  
上野車掌区問題

事例2  
土浦運輸区問題

事例3  
青年部落書問題

第二には、東労組を牛耳っているのが革マルだからだ。革マル特有の、人間を力で支配できると考えるファシズム的発想が根幹にある。

こんなことをいつまでも許してはいけない。いまこそ東労組と決別し、労働者のための労働組合を創り直そう。